

2020 年春期語学研修プログラム レポート

工学部都市デザイン工学科 3 年

国：フィリピン

研修先：NILS



テーマ：海外語学研修に参加して身についたこと

私は 2 月 16 日から 3 週間、フィリピンのセブ島にある NILS という語学学校で英語の勉強をしました。そこで、身についたことがいくつかあります。

一つ目は英語力です。日本では英語を勉強しようとする、どうしても教科書や単語帳を勉強することばかりになり、話す力がそこまで向上しないと思っていました。しかし語学研修先では、毎日の授業はもちろん日常生活でも英語で会話や聞き取りをしないといけないので、必然的に英語力が向上しました。

二つ目は、自分の身を守る能力です。セブ島で日常生活をしていると、知らない人でもよく話しかけてきます。一概に話しかけてくる人全員が悪いわけではありませんが、見極めることが身を守るために必要です。また、セブ島生活の 5 日目の夜に歩道を歩いていた際、尖ったでっばりに足をぶつけて怪我をしまいました。日本では安全な場所であっても、地域や国が違えば安全でないことがあると知り、日常生活では様々なところに目を配って危険察知能力をつけることが大事であると感じました。

最後は、海外での生活のすべです。海外では生活するにあたって、日本とは違うことが多くあります。例えば、水道水は飲めない・貴重品の管理は日本以上に気を付ける・道路横断の仕方などです。私はセブ島にいた際、ある出来事がきっかけで、現地のルールに合わせることの大切さに気付きました。友達と 3 人でスーパーマーケットに行った時のことです。私たちは大きな声で話をしていたのですが、突然周りの人が動きを止めました。「お祈りの時間だ」と気付いた私たちは、その場で立ち止まって周りの雰囲気に合わせてみました。この経験を通して、私はその場所や国によつての習慣やルールに合わせて、海外の人と同じように過ごすことができると知りました。

2020 年春期語学研修プログラム レポート



工学部応用化学科 3 年

国：フィリピン

研修先：NILS

テーマ：海外語学研修に参加して身についたこと

僕は今回の研修先であるフィリピンの NILS に 2020 年 2 月 23 日～3 月 14 日の 3 週間滞在しました。フィリピンは気候面や食事、文化など、日本とはかなり違う面もかなり多く、毎日刺激を受けながら英語を学ぶことができました。その中でも研修中に身についたと感じたことや、いい影響を受けたと感じた三つを紹介したいと思います。

まず、身についたと感じたことは英語の会話能力です。研修前の僕の英語の会話能力は、外国人にかなりゆっくり話しかけられて、それに対して非常に短い一文で返答するというレベルでしたが、3 週間後には外国人の標準の会話スピードでも、大体理解することができ、返答も質問次第では長めの返答もできるようになりました。3 週間なので大幅な英会話能力の向上とはいかないものの、発音や、自然な表現を学ぶことができました。

次にフィリピンの文化です。このフィリピンの文化の中でも最も驚いたのが、性別的に中性的な男性が日本に比べて非常に多いということです。日本では今でこそ LGBT などを多くの人々が受け入れていますが、フィリピンでは日本よりもさらに受け入れられているという印象でした。またフィリピンの人々の性格も穏やかでとても優しくフレンドリーなのでお店の店員とも楽しく会話できました。店員の中には勤務中にもかかわらず歌を歌ったり、急に踊りだしたりしますが、それもフィリピンでの日常で、いい文化だと思いました。

最後は、フィリピンで出会った日本人たちから受けた影響が良かったと感じました。短い期間の語学研修でもたくさんの日本人に出会いました。年齢も職業も異なりますが彼らから聞く話は僕にたくさんの刺激を与えてくれました。また、僕と同じ時期にフィリピンにやって来た他の大学の学生は、専攻が違うものの同じ理系で共通点がありすぐに仲良くなることができ、毎日一緒に行動していました。この 3 週間で語学学校の先生や現地の人々、日本人とたくさん出会い、いい経験ができたと思います。自分自身にとって新しく身につくことの多い、非常に充実した生活を送ることができたと思います。

2020 年春期語学研修プログラム レポート



工学部電子情報通信工学科 2 年

国：フィリピン

研修先：NILS

テーマ：海外語学研修に参加して身についたこと

私は英語が苦手でした。日本語は使い慣れているためなにも疑問を持たずに使えています。しかし、英語は単語や文法などいろいろと日本語との違いがあるため暗号のように感じていました。英語を自由に書いたり話したりできるようになることは私の夢でもあったため、苦手意識を払拭できればいいと考え春期語学研修プログラムに参加しフィリピンまで行きました。

私が受けた授業は語彙、聞き取り、読み取り、発音、会話、書き取りの 6 教科でした。授業を受けて最初に思ったことは、なかなか英語を聞き取れないということです。話すスピードが速かったり、発音の仕方が知っているのと違ったりしたためです。数回聞き直してやっと理解できるくらいでした。知らない単語が会話にあればホワイトボードに書いてもらい、電子辞書で調べました。英語の話し方も日本とは違いました。英語では一文をできるだけ一息で読むそうです。そのため、お腹から響くように息を出さないと上手く発音できませんでした。呼吸の調節が難しかったので長文を読むときは、最後のほうになるにつれて息苦しくなりました。文に区切りを入れて呼吸を挟むこともできるようですが、話す人の主観や状況によっても若干変わるようです。だいたい、主語と述語の間で切れるようです。他にも単語と単語をくっつけて発音したり、発音しない部分があったり、発音を変えたりなどするようです。アパートやマクドナルドと言った日本では通じるカタカナ英語が海外では通じなくてとても驚きました。英語を話すのも単語が思い出せなかったり発音の仕方がわからなかったりでなかなか会話ができませんでした。

初めの一週間は英語がなかなか聞き取れませんでした。2, 3 週間したら少しずつ聞き取れるようになり会話できるようになってきました。フィリピンに行く前はわからなかった空港のアナウンスや外国人が話している内容などが、帰国する寸前になるときは理解できなくても少しは聞き取れるようになりました。NILS の講師に音楽や映画で英語の勉強をされるといいと教わったのでやってみようと思います。語学学習で学んだことを生かしてまずは TOEIC を 500 点以上取りたいと思います。

2020 年春期語学研修プログラム レポート



工学部電子情報通信工学科 2 年
国：フィリピン
研修先：NILS

私はフィリピンのセブ島にある語学学校 NILS へ 3 週間の語学研修に行ってきました。1 日 6 時間の授業はもちろん、放課後や休日に遊びに出かけたのがとても有意義な時間でした。日本とは何もかもが違う環境で、見るものすべてが珍しく面白い光景でした。特に驚いたのが人々の移動手段です。セブ島では日本のように電車が走っていないので、バスのようなジブニーという乗り物やタクシーやバイクタクシーを利用して移動するのが一般的でした。バイクの横にサイドカーを付けたものに現地の人々がぎゅうぎゅう詰め、7 人か 8 人ぐらい乗っているのを見て、あんなに人が乗れるのかとびっくりしました。しかし、友人たちと休日に遊びに行った帰りに、タクシーが全然通っていないので、やっとつかまったのがサイドカー付きのバイク 1 台だけということがありました。7 人で一緒に乗ることになり、運転手をいれると計 8 人乗りで、日本では絶対考えられないような乗り方をして帰りました。少し怖かったけど、とてもおもしろい体験でした。

また、NILS では毎週土曜日にアクティビティが行われていました。アイランドホッピングをしたりジンベイザメと泳げるオスロブに行くなどいろんな企画がありました。学校の先生が引率してくれるので安心して遊べるし、英語で話せるのでとてもよかったです。上の写真は、アクティビティでアイランドホッピングに行った時のものです。海で泳いだり、海上にある滑り台や飛び込み台、マールという浮き輪に乗ってそれをジェットスキーで引っ張ってもらったり、お昼を食べた後は島を散歩したりして、地元の人たちとも関わってとても楽しかったです。

語学研修は時間もお金もかかることですが、日本ではできないことがとてもたくさん体験できるため、参加して本当に良かったと思います。

2020年春期語学研修プログラム レポート



ロボティクス&デザイン工学部
システムデザイン工学科1年
国：フィリピン
研修先：NILS

留学を通して身についたことは、自分を表現することです。授業はすべてマンツーマン形式で行われるため、恥ずかしがらずに相手と一緒に歌って、踊ることで互いにうちとけあって会話がはずみました。うまく会話ができないからこそ、身体を動かすことで話しやすい空気になりました。海外では相手にものを伝えるとき、すぐにそれに見合った単語が出てきません。言葉だけでなく、ジェスチャーで表現することはコミュニケーションにおいてとても重要です。ひと言で短絡的に日常会話ができる日本では感じないことです。

感動したことは助け合いの精神です。現地には貧しいため、物乞いしている人がいました。そこを通りかかった大半の人が立ち止まって寄付していました。キリスト教を信仰している人が多く、彼らは「誰かのために良いことをしたら、めぐりめぐって自分に帰ってくる」と言っていました。宗教が人格形成の基盤となっていることを痛感しました。また、フィリピンの人は親思いです。ニルスの先生は若い人が多く、もらったお給料の大半は親に渡していました。家族への感謝と思いやりの大切さを知らされました。

苦しかったことは、現地の雰囲気慣れることです。ニルスの先生は廊下ですれ違ったらみんな明るく話しかけてくれます。その明るさに圧倒されておじけづいてしまうことがありました。感情をさらけ出すことが恥ずかしかったからです。しかし、自分から相手に話しかけようと意識することで名前も覚えてもらえて、会話が楽しくなりました。

現地で体調を崩してしまって学校をお休みしたことがありました。ニルスのスタッフが体調をうかがいに部屋まで来てくれました。英語が聞き取れない僕のために、頑張って日本語で話してくれました。体調が治ってから学校にいくと笑顔で喜んでくれました。感謝しています。